

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																			
新潟デザイン専門学校	昭和51年4月1日	加藤 一人	〒950-00932 新潟県新潟市中央区長潟2-1-4 (電話) 025-287-3383																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人 国際総合学園	平成7年3月24日	池田 祥護	〒950-8063 新潟県新潟市中央区古町通二番町541番地 (電話) 03-6734-2939																			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																		
文化・教養	文化・教養専門課程	キャラクターイラストデザイン科	平成28年文部科学省告示第18号	-																		
学科の目的	キャラクターデザインを職業とする上で必要な企画・制作からイラストレーション、デザインの知識・技術を習得。ブランディングを意識したキャラクターの企画・制作・提案等ができるデザイン力を備えたデザイナーの育成。																					
認定年月日	平成30年2月27日																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																
2年	昼間	1976	132	0	1844	0																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
30人	49人	1人	3人	10人	15人																	
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日	成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ・評価基準:A・B・C・Dの4段階																		
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月27日～8月25日 ■冬季:12月15日～1月5日 ■学年末:2月24日～3月31日	卒業・進級条件		・出席率80%以上 ・授業課題の提出 ・卒業制作、修了制作の提出 ・学費完納																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 早期の保護者を交えた対応 個別面談、個別作品指導 希望制のスクールカウンセリング制度あり	課外活動		■課外活動の種類 ・ボランティア ・イベントの実行委員会等 ・企業インターンシップ ■サークル活動: 有																		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) デザイン系企業(広告・印刷業界・web関係 等) ■就職指導内容 就職活動の仕方、企業研究等、就職実務授業で実施 就職研修においてビジネスマナーや履歴書添削 個別面談、三者面談の実施 ■卒業者数 14 人 ■就職希望者数 6 人 ■就職者数 4 人 ■就職率 67 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 29 % ■その他 ・進学者数: 5人 ・作家活動: 3人 (令和 2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)	主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)																		
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コミュニケーション検定</td> <td>③</td> <td>14名</td> <td>11名</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定</td> <td>③</td> <td>14名</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>ビジネス著作権検定</td> <td>③</td> <td>14名</td> <td>9名</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	コミュニケーション検定	③	14名	11名	色彩士検定	③	14名	10名	ビジネス著作権検定	③	14名	9名
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																			
コミュニケーション検定	③	14名	11名																			
色彩士検定	③	14名	10名																			
ビジネス著作権検定	③	14名	9名																			
中途退学の現状	■中途退学者 0名 令和2年4月1日時点において、在学者36名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者36名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 クラス担任による個別面談、早期発見による保護者との連携、カウンセリング制度の活用		■中退率 0%																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度:有 奨学金制度 高校新規卒業生年額30万円、高校既卒生年額42万円。家計の事情により就学が困難と思われる高校生および、社会人・大学・短大から専修学校への進学を目指す方に対して無利子で奨学金を貸与し、卒業後5年以内の返済期間を設けることにより就学の便を図る制度。※授業料等減免制度①本人又は家族が本校又は本校グループの専門学校に同時入学・在学・卒業している場合は、内容により入学金半額免除から授業料の一部を減額する制度。②出願時の条件を満たす事により、返還の必要がない入学金一部免除から授業料の一部を減額する制度。 ■専門実践教育訓練給付:・非給付対象 ■民間の評価機関等から第三者評価:無																					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:無																					
当該学科のホームページURL	https://ncadnet.jp/department/ci.html																					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者であり、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

デザイン業界では、基本的な技術・知識を基に、最新の多様な変化に対応できる知識技術が求められている。そのため、県内及び県外の就職先企業・インターンシップ先等の各企業等と連携し、現在業界の求めている人材像やスキル等の動向を把握・分析し、専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目、授業内容の改善工夫などを行うために教育課程編成委員会を設け、教育内容の質の向上に継続的に務める。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

印刷・デザイン・広告・イベント業界等の主催するセミナーや各学会等で研究される「業界で求められる人材像やスキル」を基に、学科長と学科担当教員が授業科目や内容の原案を制作し、教育課程編成委員会に提出し意見を求める。教育課程編成委員会の意見について再度検討し、学校長、各科学科長、就職進路相談担当者からなる学校運営会議に案を提出し決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
高田 哲雄	一般社団法人 亜細亜美術協会 理事長	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日(3年)	②
新保 悟	ジャムルクルー株式会社	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日(3年)	③
渡辺 淳一郎	株式会社アイディ・東和 取締役営業部長	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日(3年)	③
斉藤 秀一	NPO法人アジアクラフトリンク	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日(3年)	③
白井 剛暁	DESIGN DESIGN 代表	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日(3年)	③
浅野 勝利	株式会社Too	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日(3年)	③
澁谷 敏	シブヤカメラ	平成31年4月1日～ 令和4年3月31日(3年)	③
落合 剛之	株式会社TAMBO 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和4年3月31日(3年)	③
加藤 一人	新潟デザイン専門学校 校長	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日(3年)	
畑野 裕美	新潟デザイン専門学校 副校長	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日(3年)	
永井 啓司	新潟デザイン専門学校 進路相談室室長	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日(3年)	
加納 洋太	新潟デザイン専門学校 学科長	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日(3年)	
田中 圭	新潟デザイン専門学校 学科長	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日(3年)	
宝福 大志	新潟デザイン専門学校 学科長	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日(3年)	
関塚 堅斗	新潟デザイン専門学校 事務局長	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日(3年)	
羽田 裕之	新潟デザイン専門学校 学科長	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日(3年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (3月、10月)

(開催日時(実績))
第1回 令和2年3月18日 17:00~18:30
第2回 令和2年10月16日 16:00~17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
教育課程編成委員会や連携企業等の意見を活用して、企業との連携時に、個人の制作であってもプロジェクトチームとしての役割分担やその目的を重視し、プロジェクト全体の把握などを意識した制作体制の経験をできるようにした。就職授業や就職研修時だけでなく、実習授業時の指導として加えることでより実践的な指導となった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
業界での実際の依頼時同様の工程を実施。クライアント要望等を理解し、ターゲットに合わせたデザインの提案を行い、プロとしての意識を持ちクオリティの高い作品制作を実施させる。クライアントとの打ち合わせ設定や制作工程について等の作業計画は、個人ワークとグループワークをケースに合わせて使い分け、より現場での制作に近い状況設定で行う。企業等から具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践として活かせるレベルかどうかを企業等の実務視点にて評価を得る。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
実習では依頼内容の分析からはじめ、内容に合わせた仕事の計画の立て方、基本から応用を企業目線から指導をうける。学生の技術・知識の習得状況に対して実践として活かせるレベルかどうかを企業等の実務視点にて評価。企業主催の現場で授業内容を実践し、学んだ技術・知識を活かしているか、また職業人としてのマナー等も含め総合的な評価を頂く。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
キャラクター演習	様々なテーマに基づいてプレゼンテーションを経験し、コミュニケーション力・人間力を育成する。企業プロジェクトによる作品制作を行う。	旭カーボン株式会社
キャラクター演習Ⅱ	クライアントからの依頼を意識し、どのような表現を求められているのかを分析し、いくつかの展開を提案する方法を学び制作する。	一般社団法人 新潟県測量設計業協会

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
専門的かつ実践的な知識・技術を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身に付けなければならない。職員の教育・研修に関する細則(諸規定)に定められている通り、計画的に実施する。

- ・教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・スキル研修
- ・県などの公共事業によりセミナー等への参加。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「効果的なオンライン授業 ZOOM研修」(主催:株式会社 学び)

期間:令和2年11月13日(金) 対象:教育者向け

内容:日本の高等教育機関の現状を踏まえ、効果的なオンライン授業の手法を学ぶ。教職員が教育のオンライン化に向けて共通認識を持つことを目的とする。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「先進事例から学ぶ『職業教育のマネジメント』の意義と実践」(主催:株式会社三菱総合研究所)

期間:令和2年9月30日(水) 対象:専修学校で教育に携わる職員

内容:高等教育の修学支援制度(高等教育無償化)対象の専修学校における『職業教育のマネジメント』在り方の検討と意義や効果、先進的事例について学びを深める。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「アバター活用で開けるオンラインコミュニケーション」(主催:デジタルハリウッド株式会社)

期間:令和3年7月7日(水) 対象:一般

内容:オンライン授業をより活性化させるための一つ的手段として、キャラクターを活用したVRアバター授業について、ディスカッションを通して事例を交えて学びを深める。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教育セミナー「マイクロラーニング」×「インストラクショナルデザイン」」(主催:デジタルハリウッド株式会社)

期間:令和3年6月18日(金) 対象:一般

内容:インストラクショナルデザイン理論をベースに、同期型・非同期型を組み合わせた新しいオンライン授業の実践事例(学修成果の可視化含む)紹介。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

・評価活動を通じたコミュニケーションにより、外部の学校関係者と学校がお互いに理解を深める学校関係者評価の重要な目的は、評価という協同作業を通して、学校と学校に関係する方々が、お互いに理解を深めることである。委員の方々が評価活動に参加することで、普段は目にする事のない教職員の業務や取り組みを知ることができる。また学校は、学校を取り巻く人々からどのように見られているかを知ることによって、普段の教育活動を振り返るきっかけができる。

・学校の自己評価の客観性・透明性を高める。学校評価の基本は学校の自己評価である。学校は自身の教育活動を振り返って成果や課題を分析し、それに基づいて改善案を検討する。その自己評価が、外部の学校に関係する方々の目から見ても違和感なく受け入れられるかについて意見をいただき、自己評価の客観性・透明性を高めていく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像は、特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントがお行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策が取られているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	現在、海外教育提携校とオンラインで交流等を実施している

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ①実践的な課題として取り組んでいるコンテストが学生自身の自信にもなり、また校外での評価を受ける事にもつながるので、継続を期待する意見があった。産学連携や企業プロジェクトの作品成果の発表、新規コンテストへの参加など、実践的に取り組んでいる。
- ②スクールカウンセラー制度については、これまで同様に希望者が無料でカウンセリングを受けれる制度の継続とコロナ禍における状況変化の対応等について意見があった。オンラインによる4月・9月の担任による個別面談の実施や、ホームルームの実施でクラス全員の共有なども行い、リモートでも繋がっている事を伝える工夫をした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
関本 大輔	株式会社アドハウス・パブリック	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日(3年)	企業等委員
伊藤 慎一	アイプラス	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日(3年)	卒業生
竹田 一紀	作家	平成31年4月1日～ 令和4年3月31日(3年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

公表時期: 令和3年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では、文部科学省生涯学習政策局が平成25年に発表した「専修学校における学校評価ガイドライン」等の趣旨及び取組に当たっての視点、情報提供の内容・方法に則り、本校のホームページ上で一般に公開する。また、連携協力する企業等の学校関係者に対しても、委員会で情報を提供し学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会等の委員にも、本校の教育活動や学校運営の理解や適確なアドバイスを頂き、改善に役立てるものとする。

(2) 「専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色 ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革、歴史 ・その他の諸活動に関する計画
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者に関する受け入れ方針及び入学人数、収容定員、在学学生数 ・カリキュラム(科目配当表;科目編成・授業時数)、時間割、使用する教材など授業方法及び内容、年間の授業計画) ・進級・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準等) ・学習の成果として合格を目指す検定等 ・検定試験合格の実績、コンテスト受賞の実績等 ・卒業人数、卒業後の進路(進学者数・おもな進学先、就職者数・主な就職先)
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員数(職名別) ・教職員の組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育への取り組み状況 ・実習、実技等の取り組み情報 ・企業等との連携による具体的な取り組み情報 ・就職支援等への取組支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への取り組み状況 ・課外活動(ボランティア活動等)
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への取り組み状況 ・生活上の諸問題(中途退学、心身の健康等)の状況及びそれに対する学校の対処や指導状況
(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生納付金の取扱い(金額、納入時期等) ・活用できる経済的支援処置の内容等(奨学金、授業料免除等の案内等)
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・事業報告書、貸借対照表、収支計算書、監査報告書 等
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価・学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10) 国際連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受け入れ、派遣状況 ・外国の学校等との交流状況
(11) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学則 ・学校運営の状況に関するその他の情報

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法
(ホームページ)

URL:<http://www.ncadnet.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程キャラクターイラストデザイン科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			リアルイラストI	モノや動物など、様々なカテゴリーで素材の質感や遠近を描写する。商業デザインやアートシーンに向けて基礎から学習。	1・後	44				○	○		○		
2	○			デジタルキャラクターデザイン	Illustrator・Photoshopを応用し、多角度からキャラクターデザインを考察。様々な展開を想定し、ブランディングについて学ぶ。	1・前	22				○	○		○		
3	○			キャラクター演習	テーマに基づきプレゼンテーションを経験し、コミュニケーション力・人間力を習得。企業プロジェクトを通して商業キャラクター制作を行う。	1・通	44				○	○		○		○
4	○			デッサンI	鉛筆を使用し、モノの素材・質感・空間・奥行を捉える力を養う。集中して観察する力も身に付ける。	1・通	88				○	○			○	
5	○			色彩構成	色彩が人に与える影響や、色彩心理・配色方法など、デザイン制作に欠かせない色についての知識を学ぶ。	1・通	44				○	○		○		
6	○			イラストレーション史	日本だけでなく、海外も含めたイラストの歴史を、活躍した時代背景や技法とともに学習する。	1・前	22				○	○		○		
7	○			イラストレーションI	カットイラストレーションや挿絵など、仕事として依頼される様々なケースを想定した作品制作を行う。	1・前	44				○	○		○		
8	○			ベーシックデザイン	イラストを描く上で必要となる様々な画材について、基礎から応用まで学ぶ。使用する紙の質感と相性、発色方法などの技術も習得する。	1・通	88				○	○		○		
9	○			デジタルベーシックI	PCの使い方からIllustrator・Photoshopの使い方を基礎から応用まで学ぶ。その他スキャナー等の周辺機器の使い方も学ぶ。	1・通	88				○	○		○		
10	○			似顔絵	似せる技術、紙面の構成、仕事を意識した時間管理など、基礎から実践テクニックまで習得する。	1・前	44				○	○			○	
11	○			キャラクターデザイン	擬人化から始まり、頭身の理解、マスコットキャラクターの作り方を学ぶ。立体を想定した3面図の作成技術まで習得する。	1・通	22				○	○			○	
12	○			コミュニケーション学	人と人との直接的な交流、コミュニケーションの基本を学ぶ。就職活動や作品売込み活動における自己紹介や作品の説明などに活かしていく。	1・後	22		○			○		○		

13	○		修了制作	1年間学んだ技術・知識・表現方法の集大成となる作品をテーマ・コンセプト作りから考察、制作する。	1・後	240					○	○		○				
14	○		コミックイラスト	人物画を中心に、キャラクターの世界観まで考えたコミック的イラスト（手の描き方・足の書き方・顔の方向の描き分け・表情の描き分け）を制作。	1・通	44					○	○					○	
15	○		キャラクターイメージ	キャラクター制作における設定（ネーミングやストーリー）から、背景デザインまで世界観の表現方法について学ぶ。	1・通	44					○	○					○	
16	○		就職実務Ⅰ	就職の為の基礎知識として履歴書の書き方、求人票の見方などを学ぶ。就職ガイダンス情報を確認し、就職活動の計画を立てる。	1・後	22		○				○					○	
17	○		制作実習	就職活動用のポートフォリオや、コンテスト応募用の作品制作を行う。自分の目的に合わせて制作活動を進めていく。	1・通	66						○	○				○	
18	○		就職実務Ⅱ	進路決定に向けて、実践的な進路活動の進め方について学ぶ。実際の求人紹介や、就職活動のポイント、面接時の様々な質問への対応方法を学ぶ。	2・前	11		○					○				○	
19	○		社会研究	社会人として必要な知識はもちろんの事、マナー等も含め学ぶ。	2・前	22		○					○				○	
20	○		ドローイング	様々なテーマに基づいて制作する。想像力を広げ、制作の幅を広げると共に、意図に応じたイラストレーションの制作を実習により学ぶ。	2・後	44						○	○				○	
21	○		スケッチ	基礎能力として、描写力を身につける。鉛筆・木炭・絵の具を用いるデッサンと、鉛筆によるクロッキーとを両方行い、描写力を高める。	2・前	44						○	○				○	
22	○		キャラクター演習Ⅱ	クライアントからの依頼を意識し、どのような表現を求められているのかを分析し、提案方法を幅広く学ぶ。企業連携により実践力を習得する。	2・通	44						○	○				○	○
23	○		表現演習Ⅱ	仕事を意識したイラスト制作を行う。クライアントからの依頼を様々な表現方法で制作する。	2・通	66						○	○				○	
24	○		エディトリアルデザイン	テーマ別カットイラスト制作、雑誌ページダミーの制作、詩や小説の挿絵制作を経て、本の装丁の仕事の流れを理解する。	2・前	22						○	○				○	
25	○		ビジネス著作権	デザイン制作分野において重要となる、著作権に関して、条文や症例を通して学ぶ。ビジネス著作権検定 対策授業。	2・前	22		○					○				○	
26	○		コンペ実習	様々なデザインコンペを通して、制作の幅を広げると共に、仕事を想定した提案方法を考え、賞の受賞を目指す。	2・前	44						○	○				○	
27	○		制作実習	それぞれ成長したい分野や技法、コンテスト応募などに挑戦し、新たな表現方法の開拓や、技術の振り返りを行う。	2・通	66						○	○				○	

28	○		リアルイラストⅡ	1年次の基礎に加え、様々なモチーフを描画していく。仕事の依頼に応えられるクオリティを目指す。	2・前	44				○	○				○
29	○		DTPデザイン	Macを使用してキャラクター制作や、印刷物の版下データ制作を学び、就職を目的としたDTPデザイン（名刺・DM・チラシ・ポスター）を行う。	2・通	88				○	○				○
30		○	創作絵本	ストーリー構築の基礎、絵本キャラクター制作、ページ編集方法を学ぶ。最終的に一冊のオリジナル絵本を仕上げ、絵本作家公募展の受賞を目指す。	2・通	88				○					○
31		○	コミックイラストⅡ	実際 of 原稿用紙を用いて漫画表現を学ぶ。ストーリーや設定、キャラクターデザイン、背景のパース等総合的に学ぶ。	2・通	88				○	○				○
32		○	似顔絵Ⅱ	1年次の基礎に加え、人物だけでなく、背景や文字入れバランスなど、より完成度の高い作品制作を学ぶ。	2・通	44				○					○
33		○	イラストワーク	平面から立体まで、様々なイラストレーション分野の仕事を意識した作品制作を学ぶ。	2・通	44				○					○
34	○		卒業制作	2年間学んだ集大成としての作品制作をする。様々なイラスト表現を通して、伝えたい事をしっかりとまとめて制作する。	2・後	240				○	○				○
35	○		異文化研究	異文化に触れることで視野を広げ、創作的意欲を深める。事前に現地 of 文化・風習・生活について理解を深め、より効果的な現地研修を実施する。	2・後	11		○			○				○
36	○		立体キャラクターデザイン	立体でのキャラクター制作を学習。粘土を用いて、半立体イラスト～立体イラスト（設計図も含む）まで仕上げる。	2・通	88				○	○				○
合計					36科目		1976単位時間（単位）								

卒業要件及び履修方法			授業期間等	
・出席率80%以上	・授業課題の提出	・卒業制作、修了制作の提出	1学年の学期区分	2期
			1学期の授業期間	18週

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。